2026 年 11 月

教会学校校長及び教師
教会・伝道所牧師及び役員
キリスト教関係施設及び学校　皆様へ

第 43 総会期　日本基督教団教育委員会
委員長　横山ゆずり

2026 年度 全国教会学校クリスマス献金のお願い

主の御名を賛美いたします。日本基督教団教育委員会では、クリスマスの時期を☆喜びを分かつ恵みの時☆ととらえて、「みんなで生きよう」の主題のもと皆さまに献金をお願いしています。今年は以下のような計画を立てました。子どもたちと共に、困難の中に置かれている世界と日本の人々の苦しみや喜びに寄り添い、クリスマス献金をおささげしたいと思います。

＜募金計画＞

主　　題：**「みんなで生きよう」**
ウクライナのおともだちと共に、パレスチナ・ガザのおともだちと共に
能登半島地震で被災したおともだちと共に
アイヌのおともだちと共に
東日本大震災で被災したおともだちと共に
全国の教会の子どもたちと共に（「教会学校応援セット」）

献　金　先：**特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン**
パレスチナ自治区・ガザにある　アハリー・アラブ病院
北陸学院キリスト教センター・支援窓口
北海教区アイヌ民族情報センターとアイヌ奨学金キリスト教協力会
東北教区放射能問題支援対策室いずみ
教会・伝道所の教育活動支援（「教会学校応援セット」として）

～上記のほか、緊急に必要なところに献金の一部をお送りする場合があります～

献金目標：800 万円

期　　間：2026 年 12 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

送 金 先：①郵便振替　00150-8-27638　日本基督教団教育委員会　もしくは
②ゆうちょ銀行　０一九店（ゼロイチキュウ店）当座預金　0027638　日本基督教団教育委員会

問合せ先：日本基督教団教育委員会　クリスマス献金係　　メール：kyouiku-c@uccj.org
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31　　電話:03-3202-0544　　ﾌｧｯｸｽ:03-3207-3918

※「趣意書」は、子どもたちへの説明や、ＣＳ教師会などで是非ご活用下さい。
※子ども向け広報誌「みんなで生きよう」を追加でご希望の場合は、上記までご請求下さい。
※また、「みんなで生きよう」の送付部数が多い場合も、お手数ですが上記までご連絡下さい。
次年度より部数を減らしてお送りします。

２０２６年　クリスマス

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」≪ルカ2章14節≫

～毎年お心にとめ献金を送って下さり、ありがとうございます。今年も継続して以下の5団体を支援します～

１．ウクライナのおともだちと共に：　特定非営利活動法人　チャイルド・ファンド・ジャパン

2022 年 2 月 24 日のロシア軍による侵攻から 4 年半以上が経過しました。長期化する戦争により、ウクライナ国内で 1,080 万人が人道支援を必要としています。学校も損傷、破壊しており、多くの子どもたちはリモートで授業を受けています。長引く爆撃の脅威で子どもたちの心の傷やトラウマも深刻です。食糧購入などが優先され、避難所では衛生用品が不十分だったり、女の子の生理用品が後回しになったりする現状があります。**チャイルド・ファンド**は、引き続き首都キーウやハルキウといったウクライナ国内、および隣国のモルドバで支援を続けています。**ウクライナの子どもたちや家族のために温かいご支援をお願いします。**

＜現在の主な支援活動＞　　～食糧支援・越冬支援・教育支援・心のケアなど～

①　子どもたちや女の子への衛生用品・生理用品の支給　②リモート学習のための PC・タブレットの支給

③　地雷の危険性を伝える啓発セクション（国土の 30%に地雷や不発弾が埋められています）

④　アートセラピーなどの心のケア　⑤冬を越すためのヒーターや防寒着の支給　など

＊支援が減少する中、数年にわたって献金を続けてきた日本の子どもたちへの感謝を伝えるために、2026 年 5 月、現地で支援活動をしているイタリアスタッフ、日本の事務所スタッフが教団事務局を訪問されました

２．パレスチナのおともだちと共に：　パレスチナ自治区・ガザの アハリー・アラブ病院

～アハリー･アラブ病院とガザの人々を支援して下さる全ての皆様に、心より　深く感謝いたします～

パレスチナは聖書の主な舞台でもありますが、1948年のイスラエルの建国以降、多くのパレスチナ人は代々生活していた土地・家・故郷を奪われてきました。軍事対立や経済封鎖による混乱と貧困があり、教育と保健医療は慢性的に不足しています。その中でガザ北部にある**アハリー・アラブ病院（聖公会エルサレム教区運営）は、宗教や民族の違いに関係なく、すべての住民に高水準の医療を提供する外傷専門病院および総合病院です。2023年10月7日、イスラエルはハマスへの報復としてガザ市内の過密住宅地へ大量の爆弾を落とし、それから2年にわたり攻撃が続いてきました。2025年10月10日、イスラエル軍によるガザ停戦が発効されましたが、以降もイスラエル軍による無差別攻撃は続いており、ガザでの死者は増え続けています。**

極めて困難な状況の中、アハリー病院の救急部門には、毎日負傷者や緊急患者100～150名が搬送されてきます。またガザの医療システムの大部分が破壊されたことで、外科手術の待機リストが長くなっています。病院では、一般外科、小児外科、整形外科、耳鼻咽喉科、血管外科において、毎日30件の無料手術を実施し、避難民や脆弱な立場にある患者を優先しています。医療品・医療機器・医療スタッフの不足も続いています。

３．能登半島地震で被災したおともだちと共に：　北陸学院キリスト教センター・支援窓口

2024 年 1 月 1 日、能登半島で震度 7、M7.6 の地震が発生しました。金沢市にある北陸学院では、北陸学院キリスト教センターが中心となり、被災当初より被災地支援を続けています。

北陸学院キリスト教センター支援窓口　堀岡満喜子室長より以下のご報告をいただきました。

能登半島地震・豪雨災害から 2 年 8 か月が過ぎた能登の復旧・復興はまだら状態です。復旧し生活再建に向けて動き出せている地域や個人がいる一方で、未だライフラインが途絶したままの集落、斜面崩落で道路が塞がったままの地域があり、そのような住民の暮らしを目の当たりにすると、復興という言葉を使うことに躊躇いを隠せません。それでも多くの住民が生活再建の不安を抱きながら、それでも故郷で暮らすという夢、希望、覚悟を忘れず前を向いて歩んでいます。しかしその足どりは決して軽やかなものではありません。

今は大丈夫でも、ふとした時に不安が湧き上がることがあります。そんなとき手を取り、伴に走る他者の存在は、不安や苦しみを幾分か軽減します。能登にはまだ伴走者が必要です。本学院の被災地支援は、「能登に生きるこの人」の生活の中に入り、ハンドベルの音楽を奏で、困っている場所で一緒に作業し、ピザ窯をつくって能登の食材のピザを一緒に食べ、足湯でほっこりとお話をする。今年も全国から参加してくださる学生たちとご一緒に、「隣りにいて、一緒に動く」、そんな時を刻みました。

～自然災害がさらに広がり能登が忘れられてしまうことが心配で心細いです。これからも覚えてください～

４．アイヌのおともだちと共に：
北海教区アイヌ民族情報センター と アイヌ奨学金キリスト教協力会

北海道は先住民族であるアイヌ民族の人たちが昔から自然と共に生きてきた土地で、アイヌの言葉でアイヌ・モシリ「人間の土地」といいます。けれど日本が近代国家として歩むなかで、アイヌ民族の人たちはそれまで住んでいた土地での生活、文化や言葉も奪われてきました。そうした過去の歴史を反省するなかから、**1988年に《アイヌ奨学金キリスト教協力会》が設立**され、アイヌ民族の修学・人材養成・国際交流に対する支援を行ってきました。**柱である奨学金制度のほか、アイヌの子どもたちの学習教室《とかちエテケカンパの会》の支援**や、**先住民族との文化交流**にも資金が用いられています。**1996年には**「アイヌ民族の権利回復と差別撤廃を教会が宣教課題として取り組むことを目的」として**《北海教区アイヌ民族情報センター》が開設**されました。**北海教区アイヌ民族情報センター主事の三浦忠雄先生より以下のご報告をいただきました。**

2026年の活動を始めることができることを感謝いたします。今年はアイヌ奨学生9名への支援（高校生5名、大学生4名）、《とかちエテケカンパの会》および《シベチャリアイヌトライブ》の支援を行いました。

静内のアイヌグループであるシベチャリアイヌトライブのみなさんは、海外先住民族との交流と学習を続け、後継者育成のためにも努力されています。みなさんは、先祖の遺骨279体を返してほしいと裁判をおこします。今年はこれらの活動のためにも協力しています。多くの差別がいまだにアイヌの人々に向けられています。

～アイヌとして胸を張って生きることができるように、私たちも努力し、協力していきたいと願っています～

５．東日本大震災で被災したおともだちと共に：　東北教区放射能問題支援対策室いずみ

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災より 15 年が経ちました。東京電力福島第一原子力発電所事故により、人々が今まで自然豊かに暮らしてきた土地、山や森、海は放射能により汚染されてしまいました。

放射能による健康影響が最も大きいのは子どもたちです。2013 年 10 月、そうした子どもたちとご家族の不安を少しでも取り除こうと、医師による健康相談や甲状腺エコー検査、保養プログラムなどを行うため、**《東北教区放射能問題支援対策室いずみ》**は発足しました。今年で 13 年を迎えます。

～東北教区放射能問題支援対策室いずみの具体的な活動は以下の通りです～

①甲状腺検査や健康相談　②親子保養プログラム　③「311 子ども甲状腺がん裁判」の支援（甲状腺がんになった若者たち 8 人が立ち上がった裁判。2026 年 12 月 2 日に東京地裁にて第 20 回口頭弁論を予定）

2026 年 7 月 31 日～8 月 4 日には、「心と体をリラックス！！第 17 回親子短期保養プログラム in 北海道」を開催しました。3 年ぶりの開催で、５日間のプログラムでは参加者やスタッフの笑顔があふれました。

～教団教育委員会では、2013 年度クリスマス献金より継続して「いずみ」の活動を支援してきました
支援は長期にわたって続ける必要があります。今年も「いずみ」の働きを覚えてお祈り下さい～

＊それぞれの団体の活動は、各団体の HP（ホームページ）でもご確認いただけます。

どうぞ『みんなで生きよう』誌と併せて、教会学校の子どもたち、幼稚園・保育園・子ども園、学校の子どもたちにご紹介くださり、またそれぞれの団体の働きのためにお祈りください。

６．教会学校のおともだちと共に：　「教会学校応援セット」　　*＊2007 年度より実施*

教会学校（子どもの教会）を再開したい、活性化させたいという思いにこたえて、以下の **4 つのコース**を用意しました。皆様からのクリスマス献金から、希望する教会・伝道所に贈ります。

コース内容

（A）聖書10冊、こどもさんびか10冊、「伴奏譜」1冊　（３教会）
　＊「聖書」は口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳の中からお選び下さい。
　＊「こどもさんびか」は「1987年度発行」か「改訂版こどもさんびか」をお選び下さい。
（B）聖書物語・その他の絵本、紙芝居、教材とカードのセット　（３教会）
（C）ヒムプレーヤー 1台　（２教会）
（D）能登半島地震や豪雨で被災した教会学校の枠（＊Dセットは2026年度で最後となります）

【「教会学校応援セット」応募に関して】　　＊締め切りは　2027年1月31日

①応募を希望する教会・伝道所は、教師会または役員会でご検討いただき、教団教育委員会にお申し込み下さい。「教会学校応援セット申込書」は所定の用紙があります。教育委員会にお問い合わせいただき、「申込書」をお取り寄せ下さい。（電話：03-3202-0544）。

②「申込書」に必要事項をご記入のうえ、ファックス（03-3207-3918）またはメール（Email：kyouiku-c@uccj.org）でお申し込み下さい。応援セットをお届け後に委員会より様子をお伺いしますので、連絡先は詳しくご記入ください。　　**締め切りは　2027年1月31日です。（厳守）**

※過去に「教会学校応援セット」の贈呈を受けられた教会・伝道所は3年間応募をご遠慮下さい。

※申込書に記載された《活動予定》と《教会規模》等を考慮のうえ、2月開催の教育委員会にて選定および決定いたします。結果はお電話でご連絡いたします。

※「教会学校応援セット」贈呈後に簡単な「報告」を提出していただきます（報告締め切り2027年7月31日）。

☆ 昨年度(2025 年度)クリスマス献金 感謝報告 ☆彡

2025 年度のクリスマスも「みんなで生きよう」という主題のもとで献金をお願いいたしました。
日本全国各地より、教会学校ばかりではなく、キリスト教学校、幼児施設、そして個人、団体から、心のこもった貴い献金をお寄せいただきました。大変ありがとうございました。
教育委員会で検討した結果、献金の配分については、以下のようにさせていただきました。

献　金　総　額　：　6,737 ,979 円（合計 411 件　2025.4.1～2026.3.31）

送 り 先・金 額　：　6,060 ,893 円

＜海　外＞

① **特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン** ≪ウクライナ緊急支援≫　150 万円
② **パレスチナ･ガザ地区　アハリー･アラブ病院　（聖公会エルサレム教区運営）**　75 万円

＜国　内＞

③ **北陸学院キリスト教センター** ≪能登半島地震支援の為のボランティア活動≫　75 万円
④ **北海教区アイヌ民族情報センター・アイヌ奨学金キリスト教協力会**　100 万円
⑤ **東北教区放射能問題支援対策室いずみ**≪甲状腺検査･親子保養プログラム等≫　150 万円

「教会学校応援セット」として（６教会）　560,893 円

A コース（聖書・こどもさんびか）：大磯教会、金沢長町教会
B コース（絵本・紙芝居）：鳥取教会、羽咋教会（＊D 能登枠）
C コース（ヒムプレーヤー）：輪島教会（＊D 能登枠）、七尾教会（＊D 能登枠）

＊以上の５件にクリスマス献金を送金いたしました。
また６つの教会に「教会学校応援セット」を送りました。
残金は広報費等に用いました。

「教会学校応援セット」をお贈りした6教会からの報告を「2025年度教育委員会クリスマス献金報告」（水色の用紙）に掲載しています。ぜひ併せてご覧下さい。